

設計から介護までこだわり抜き 皆に愛されるホームへ

サービスのクオリティは、より快適に暮らしてもらいたいというスタッフの情熱と不断の努力によって支えられる。入居者、スタッフ、地域住民、皆に愛されるホームを目指して奮闘する「すいとびー」の姿に迫った。



篠さんが自ら意匠を手がけた、リビング脇の「和のスペース」。洋を意識した館内に違和感なく調和した、安らぎの空間だ

厚木街道と中原海道の交差点に位置する、



すいとびー三ツ境の表玄関(上)。裏手(右)にかけ、多数のクリニックが併設されている



「介護は掃除から始まるというのが、私たちの考えです。いつでも新築同様に整えるよう心掛けています」。こう話

すのは、運営する日総ニフネイ株式会社代表取締役専務篠明俊さん。同社の4つのホームすべてで自ら意匠を手がけ、それぞれ趣の異なる「オ

「ダイメイドのホーム作り」を実践している。



色とりどりの花に飾られたフロアリビング(左上)と、エントランスホール(右上)。入居者が実際に生活する居室(左下)にも飾られていた

もつながらるものを作りたい。「身体だけでなく心の健康に

大切で、三ツ境は特に、その点にこだわりました」

高台に位置するすいとびー三ツ境は南側が大きく開けており、居室からは周辺の緑地を一望できる。加えて、リビングのすぐ外には庭園もある。共有スペースには花が多く飾られるなど、細部にこだわった工夫が光る。

献身的な認知症介護で表彰される

「必要なものは、可能な限りきちんと取り揃えたい」とそう話す篠さん。すいとびー三ツ境では、医療・介護の備えにも注力している。

まず一目でわかるのが、1階に併設された「医療モール」。内科、外科、整形外科、歯科、調剤薬



日総ニフネ・篠明俊代表取締役専務

局がずらりと並ぶ。日常生活に必要な医療サービスは、ここで事足りそうだ。加えて、横浜市・新子安にある総合病院・古川病院と提携しており、入居者全員が年2回の定期検診、および往診を受けている。ホームと古川病院は各入居者の医療カルテを共有しているため、緊急時の入院にも的確に対応できるという。

一方介護面では、介護職員対入居者の割合が1対2を割る体制で運営されている。充実した人員配備の中で、入居者一人ひとりと向き合い、共に喜びを分かち合うように努めているが、その結果として結果したのが、神奈川県特定施設研究大会での優秀賞受賞(2012年)だ。県内の各ホームが介護の取り組みを発表するこの大会で、すいとびー三ツ境は「夜間せん妄(注)」の入居者への認知症ケアに関する発表を行った。症状が重く、当初はスタッフの間でも「本当に受け入れられるのか」という戸惑いもあったが、粘り強い介護が功を奏し、現



ベランダの目の前に広がる庭園。リビングと直結しており、いつでも緑を楽しめる

115 (注)夜間せん妄……夜になると落ち着きをなくし、そわそわしたり攻撃的になったりする症状のこと。

すいとびー三ツ境 & すいとびー本牧三溪園

在は問題行動がなくなったという。その取り組みが高く評価され、受賞につながったのだ。

このケースのように、スタッフが入居者と共に悩み、考え、成長し、「コミュニティを築くことが高齢者ホームの核である」と篠さんは話す。

「一事業者という立場ではなく、共に理解しあい、手を携えて豊かな生活を作り上げていきたいのです。介護はいずれ別れの時が来る『切なさのビジネス』です。その瞬間が切なくて仕方がない、そう思える感性と関係性がそこ大切なのだと思えます」

**介護サービスは「公共財」
社会への貢献を目指して**

すいとびーの4ホームは、いずれも横浜市内にある。本



スタッフが常備する、すいとびー7つのお約束

社から目の届く範囲で展開することで、コンセプトを全ホームで共有することが理由の一つだ。そしてもう一つの理由は、地域密着にある。

「入居される方は地域の人が多く、そのためご訪問されるご家族・ご友人が多いのも特徴です。そうした方にもご参加いただける陶芸教室等も行っていきます。地域からも愛される、『街の財産』といえるホームにしたいですね」（篠さん）

**すいとびー本牧三溪園が13年にオープン！
専門の診療所と保育園を併設した、
安心と潤いのある生活環境**

13年5月にオープンを予定する、有料老人ホーム「すいとびー本牧三溪園」（以下、本牧三溪園）。元町・中華街からほど近い本牧の地に、6階建・全80室の新ホームが建つ。その魅力を篠さんに聞いた。

①さらに充実した医療連携

すいとびー三ツ境と連携する横浜市の古川病院が、医療体制を全面バックアップ。同病院が本牧三溪園の施設内に24坪の診療所を新たに設置し、入居者を対象に診察を行う。日勤時間帯には医師と看護師が常駐し、3台設置される診察台では点滴などの医療措置が行われる。また、訪問介護



加藤さんが作成したすいとびー本牧三溪園の「立体模型」。屋根を外すと中も見える

ステーションも併設されるが、在宅介護利用者にも医療サポートを充実させたいという。さらに本牧三溪園の隣接ビルには、内科、外科、整形外科、眼科、歯科、小児科等のクリニックが開業している。本人だけでなく、ホームを訪ねる家族も折をみて活用できそう。

②保育園を併設！

本牧三溪園の1階フロアには、認可保育園が併設される予定だ。

保育園の児童との交流も大きな楽しみ。1階のガーデンに面して設置されるホーム内のリビングは約90畳で、日常はくつろぎの空間として映画鑑賞等にも用いられるが、保育園や周辺小中学校との交流イベントの場としても利用されるそう。

③恵まれた環境と特別な「しつらえ」

本牧と言えば、横浜港に臨む高級住宅地としても知られる。本牧三溪園の建つ高台からは港を一望できる。

ホームは緑に囲まれ、目の前には公園もあり、近隣には大型のショッピングモールやレストラン、そして国の名勝にもなっている日本庭園「三溪園」もある。



水と緑にいやされる名勝・三溪園

この環境を活かした設備も魅力のひとつ。最上階の6階には、家族との誕生日会などに利用できる「ファミリールーム」を設ける。方角的に、横浜ベイブリッジを中心とした横浜の夜景を存分に楽しめるはずと、篠さんは胸を張る。このほか、家族向けの宿泊室なども設置するという。



花が映える庭園で、会話も弾む

ホーム「すいとびー本牧三溪園」を開設する。たとえば医療面では、提携する古川病院が施設内に診療所を設け、入居者の健康管理



篠さん（中央）と、同社上席執行役員・加藤秀夫さん（左）、すいとびー三ツ境施設長・後藤美津枝さん

これまで培った設計へのこだわり、介護力、医療との連携、地域との関わり。それをさらに充実させる形で、2013年、新たなホーム「すいとびー本牧三溪園」を開設する。

たとえば医療面では、提携する古川病院が施設内に診療所を設け、入居者の健康管理を担うという。また地域交流という点では、新設保育園を施設に併設するという非常にユニークな取り組みも予定している。

様々な工夫を重ね、よりよいホーム作りに挑戦するすいとびー。その想いの原点は、どこにあるのだろうか。

「当社は元々、訪問介護からスタートし、現在も神奈川、福島、茨城で事業展開しています。会社全体として、どんな人に対してもサービスを提供できる『公共財』でなければ、会社の価値はないと考えています。ホームにおいても入りやすいお値段で、最大限のサービスを提供したい。それが、私たちの想いです」

介護を通じて社会に貢献したい。誠実な篠さんの口調に、確かな情熱を感じた。